

## 2023年度事業報告

自 2023年 4月 1日

至 2024年 3月31日

印刷図書館は昭和22年(1947年)に「印刷及びその関連分野の図書資料を収集し、専門図書館としての設備充実を図り、保存並びに広く一般公開することによって、印刷技術及び印刷文化の発展向上に寄与すること」を目的に設立されました。

2023年度の事業運営にあたりましては、一般財団法人としての公益性を踏まえつつ、2023年度「事業計画」に基づき、専門図書館として一般利用者へ情報提供を行うとともに、各事業の積極的な推進に努めました。本年度の各事業の実施状況を報告するに当たり、下記のとおり、印刷図書館の事業体系に沿ってご報告いたします。

### 印刷図書館の事業体系

#### 【公益目的事業】 1. 図書館運営事業

- (1) 専門図書館としての一般公開及びサービス
- (2) 図書・資料の収集、整理
- (3) 利用者への蔵書の紹介・検索、情報の提供
- (4) 関連機関との相互協力

#### 2. 広報活動事業

- (1) 受入れ資料のデータベース化
- (2) インターネットへの蔵書データの更新
- (3) ホームページを通しての新刊情報の紹介
- (4) ホームページを通しての財団活動報告等
- (5) 「印刷図書館コレクション」を利用した周知活動

#### 【その他事業】 所蔵する印刷文化財の貸出

#### 【重点テーマ】 1. 資料保存環境の見直し

2. 図書館の外部向け広報活動の強化
3. 図書館と関連機関との連携強化

#### 【運営管理業務】 理事会及び定時評議員会の開催

# 事業報告

## 【公益目的事業】

### 1. 図書館運営事業

#### (1) 専門図書館としての一般公開及びサービス

##### ① 利用状況

2023年5月、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと移行したことで、「With コロナ」から「After コロナ」へと経済活動は緩やかな回復基調を取り戻した。しかしながら、来館者数は前年度と比較して約3割減の168人であった。これはコロナ禍であった2020年度と同程度の水準であり、昨年好評だったカタログ展受賞作品展示期間中の来館者数が減ったことも一因として挙げられるものの、年間通しての利用者減少が響く結果となった。

今後は潜在的な利用者となりうる芸大・美大の学生や他関連施設の利用者・研究者に向けてリーフレットの配布など、アプローチを積極的にしていくことで、改善を目指す。

当図書館の利用にあたっては、会費を納めている法人(維持会員)は無料、それ以外は、一般利用600円、学生200円としている。

利用者の多くが印刷業界並びに関連業界であるが、一般利用者の特徴として、シンクタンクやコンサルティングサービス会社による印刷業界の動向及びデータ収集の利用が多い。詳しい内訳は表1のとおりである。

(表1 印刷図書館来館者内訳 単位：名)

	維持会員	一般	学生	合計
2023年	101	64	3	168
2022年	132	106	3	241

##### ② 閲覧分野

例年同様、最も多く閲覧された分野は印刷業界の分析資料だった。最新の統計情報や業界動向資料として新聞・雑誌・機関誌・会報なども併せて閲覧されることが多く、また、戦前の印刷技術・歴史について調べる際にも利用されるため、資料形態としては新聞・雑誌類が最も多く利用される結果となった。

また明治・大正時代の書体見本や雑誌等の貴重資料については、書体研究家や当時の資料を探している方にとって実物を直に触れることができるため、好評であった。2023 年度における閲覧分野の大きな内訳は次のとおりである。

(単位：件／複数回答)

市場分析 動向 統計	技術 経営 料金 管理	資機材 (印刷機械、 紙、インキ等)	社史 組合史 歴史 人物伝	学会要旨 国内外論文	雑誌 新聞 機関誌 会報	明治 大正 昭和初期 史料	書体 活字	他 (叙勲・業界 イベント等)
56	15	10	30	3	48	19	7	7

### ③ 貸出業務及びコピーサービス

#### ア 貸出業務

貸出については新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症へと移行したことで、5 月より再開した。維持会員のみを対象とし、2 週間で 5 冊までとしているが、貴重資料並びに、最新データについては館外貸出を行っていない。

なお、コロナ禍前の 2019 年度の貸出冊数は 49 冊であり、同程度の貸出数となった。

今年度における貸出状況は次のとおりである。

(単位：点)

市場分析 動向・統計	技術・経営 料金・管理	社史・組合史 歴史・人物伝	学会要旨 国内外論文	明治・大正 昭和初期史料	雑誌 他	合計
5	9	10	0	7	23	54

## イ コピーサービス

コピー総数は、利用者数の減少に伴い、前年度の約 53%にあたる 844 枚だった。そのうち約半数は、市場分析及び統計資料のコピーである。このことから、統計資料の発行頻度の減少によるヘビーユーザーの図書館離れも影響していると考えられる。

本年度におけるコピーの利用状況及びパソコン利用は次のとおりである。

(単位：コピー／枚、P C／名)

	コピー総数	白黒コピー枚数 (@50 円)	カラーコピー枚数 (@100 円)	私物 P C への入力 (@400 円)
2023 年	844 枚	769 枚	75 枚	3 名
2022 年	1,587 枚	1,466 枚	121 枚	0 名

## (2) 図書・資料の収集、整理

図書、資料の収集にあたっては、印刷関連の発行状況を常に把握し、積極的に関連団体や企業に問い合わせ、充実を図ったほか、バックナンバーの欠号補充にも努めた。

2022 年度の入受総数 1,117 点に対し、今年度の入受資料の総数は 942 点となった。区分の内訳は次のとおりである。

《2023年度 受入資料の区分》

(単位：点)

区分	点数	資料紹介
プリプレス	7	写真植字No.46、職業訓練実技教科書 製版印刷 他
印刷技術	2	ポケット特殊印刷図鑑
後加工	5	パッケージデザインのひみつ、和本のつくり方
印刷資材／印刷機械	9	機能紙研究会誌、プリントソリューション 2023
技術一般／料金／出版／法令 環境／経営	27	印刷会社の生存戦略、印刷料金、働き方改革 多様な人材活用を 目指して
名簿／業界イベント／図録	34	Graphic Art & Design Annual 2022、明治のメディア王 小川一眞 と写真製版、各種名簿
市場分析、動向、統計	35	季刊出版指標、ヤノ・レポート、印刷白書
調査研究報告書	4	近代東アジアにおける地図製図・印刷技術の展開過程に関する基 礎的研究
研究論文、セミナー要旨	18	印刷学会主催の各種セミナー要旨
学会誌	23	印刷、画像、写真、メディア学会誌等
組合史・団体史・社史	17	東洋製罐グループ 100年史、創立 60周年記念誌 次世代へと切 り拓く飛躍の10年、印刷産業青年連絡協議会 20周年記念史
その他歴史・印刷関連史	4	新聞・雑誌の歴史 (文庫クセジュ 1035)
国内雑誌類	212	23誌 (月刊、隔月、季刊発行)
外国雑誌類	0	
業界新聞	281	10紙 (週刊、月2、月3発行)
会報、機関誌等	242	63誌 (月刊、季刊、年刊発行)
その他	22	漢字文化の旅人、百花繚乱の美人画ポスター
合計	942	

(3) 利用者への蔵書の紹介・検索、情報の提供

専門図書館である印刷図書館の利用者は、探す資料内容もかなり細くなるため、そのニーズに対応できるよう、資料は特集記事ならびに注目記事をデータベース化し、より詳細な資料情報の提供に努めた。

また、当館で該当資料が見つからなかった場合は、他の機関にも問い合わせをし、所蔵の有無を確認し対応した。

#### (4) 関連機関との相互協力

関連機関の企画展示のチラシやリーフレットの配布協力など、業界団体や公的機関との連携・協力を積極的に取り組んだ。

## 2. 広報活動事業

当財団はホームページを通して広報活動を実施しており、蔵書データの更新、新刊情報の紹介、財団活動等をその都度発信し、広報活動に努めた。

なお、これまでアクセス解析に利用していた Google アナリティクス (UA) が 2023 年 6 月をもってサービス終了となったため、2023 年 4 月より GA4 に移行した。GA4 はこれまでとは集計方法が異なるため、従来解析結果とは違う結果となったものの、同じ UA で 4~6 月を比べてみるとアクセス数が大きく減少していることがわかった。2022 年度と比較すると入館者数の減少と比例するようにアクセス数も減少しているが、コロナ禍前の 2019 年度と比較したところ、数値的な変動はほとんどない。このことから、2022 年度を参照し、他関連機関のイベント開催に連動するように更新をすることで、アクセス数の増加を目指す。

2023 年度のホームページのアクセス件数は次のとおりである。

#### ・2023 年度アクセス件数 (GA4) (期間：2023 年 4 月～2024 年 3 月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
閲覧数	513	679	1,051	1,067	745	664	666	584	586	703	621	672	8,551

#### ・2023 年度アクセス件数 (UA) (期間：2023 年 4 月～2024 年 6 月)

	4月	5月	6月	合計
閲覧数	886	761	929	2,576

#### ・2022 年度アクセス件数 (UA) (期間：2022 年 4 月～2023 年 3 月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
閲覧数	4,328	1,239	1,044	3,134	690	659	641	680	654	894	885	793	15,641

#### ・2019 年度アクセス件数 (UA) (期間：2019 年 4 月～2020 年 3 月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
閲覧数	799	853	934	810	685	533	623	665	630	761	579	1314	9,183

#### (1) 受入れ資料のデータベース化

今年度の受入れ資料 942 点すべてを、蔵書管理システムへデータベース化した。また、これ以外にも過去にデータ化されていなかった資料 275 点をデータベースに登録した。入力事項は、基本の書誌データ（タイトル、発行元、発行年、体裁）以外に、特集記事も入力し蔵書管理に努めた。

#### (2) インターネットへの蔵書データの更新作業

入力したデータは、速やかにインターネットへデータ転送し、ホームページの[蔵書検索]機能の充実と、情報公開に努めた。

#### (3) ホームページを通しての新刊情報の紹介

受入れ資料のうち、定期刊行物以外の図書、報告書類については、ホームページの[新刊情報]に、表紙画像とともに主要目次を掲載し紹介した。  
なお、本年度の掲載件数は昨年度 27 件に対し、24 件となった。

#### (4) ホームページを通しての財団活動報告、その他

ホームページを通して理事会及び定時評議員会に関する事業報告を掲載した。また、第 64 回全国カタログ展の受賞作品の期間限定展示の告知、ブログ更新のお知らせを行った。

#### (5) 「印刷図書館コレクション」を活用した周知活動

来館した関連機関・業界関係者に配布した。

### 【その他事業】

#### ・所蔵する印刷文化財の貸出

今年度は印刷文化財のデジタル画像の他、外部機関への展示用に現物資料の貸出を行った。なお昨年度 7 件だったのに対し、今年度は現物資料の貸出が 2 件、デジタル画像資料の貸出 4 件の合計 6 件となった。詳細については次のおりである。

作品名	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「最新活字標本」 / 森川龍文堂、1935 年</li> <li>2. 「印刷雑誌【合本】1 1891 年」 / 1891 年、印刷雑誌社</li> <li>3. 「印刷世界(印刷雑誌)【合本】8 1910 年」 / 1910 年、印刷雑誌社</li> <li>4. 「印刷雑誌【合本】41 1928 年 Vol.11 上」 / 1928 年、印刷雑誌社</li> <li>5. 「印刷雑誌【合本】75 1954 年 Vol.37 No.7-12」 / 1954 年、印刷学会出版部</li> <li>6. 「活字と機械」 / 東京築地活版製造所、1914 年</li> <li>7. 「活版見本帖 未完」 / 活版製造所 製文堂、1896 年</li> <li>8. 「印刷雑誌【合本】7 1903—1910 年」 / 1903 年、印刷雑誌社</li> <li>9. 「印刷雑誌【合本】128 1983 年 Vol.66 No.7-12」 / 印刷学会出版部、1983 年</li> </ol>
資料形態	現物資料
貸出先	大日本印刷株式会社 市谷の杜 本と活字館
目的	企画展「活字の種を作った人々」出展のため

作品名	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『デザインのひきだし1』 / グラフィック社</li> <li>2. 『デザインのひきだし2』 / グラフィック社</li> <li>3. 『デザインのひきだし3』 / グラフィック社</li> <li>4. 『デザインのひきだし16』 / グラフィック社</li> <li>5. 『デザインのひきだし41』 / グラフィック社</li> <li>6. 『デザインのひきだし45』 / グラフィック社</li> <li>7. 『デザインのひきだし46』 / グラフィック社</li> <li>8. 『デザインのひきだし50』 / グラフィック社</li> <li>9. 『デザインのひきだし50』付録 / グラフィック社</li> </ol>
資料形態	現物資料
貸出先	一般社団法人日本印刷産業連合会
目的	2023GP 認定制度表彰式「印刷と私」トークショーでの展示

作品名	<p>ポスター「壽屋赤玉ポートワイン」 1922 年</p> <p>ポスター「伊勢崎大絰銘仙」 1928 年</p>
資料形態	デジタル画像
貸出先	青梅市立美術館 学芸員 田島奈都子
目的	神奈川大学 非文字資料研究センター機関誌『非文字研究資料』第 28 号にて掲載予定の執筆論文「戦前期日本ポスター制作における写真との関係—その存在と影響を中心として」の図版として



作 品 名	ポスター「壽屋赤玉ポートワイン」 1922 年 ポスター「伊勢崎大緋銘仙」 1928 年
資 料 形 態	デジタル画像
貸 出 先	有限会社 STORK
目 的	2024 年 3 月 25 日刊行の『別冊 太陽』の特集「日本のグラフィック 100 年」にて近代の大衆文化における企業の文化史として日本の広告デザインの変遷を辿るさいの挿図として

作 品 名	「米欧回覧実記 第 1 篇」 久米邦武、1878 年
資 料 形 態	デジタル画像
貸 出 先	株式会社 NHK エディケーショナル
目 的	JICA・放送大学学園共同制作番組 「続・日本の近代化を知る」第 10 章 日本と国際法（2020 年 12 月 12 日初回放送） 日本の近代化の道筋と複雑な動きを日本人ならびに国際社会での日本を学ぼうとする学生たちに向けた教育講座内の資料として（再放送・期間延長）

作 品 名	ポスター「壽屋赤玉ポートワイン」 1922 年 ポスター「蜂印香鼠葡萄酒」 1923 年 ポスター「伊勢崎大緋銘仙」 1928 年
資 料 形 態	デジタル画像
貸 出 先	株式会社芸術新聞社
目 的	2024 年 3 月 25 日刊行の『百花繚乱の美人画ポスター』にて、近代を代表する美人画ポスター解説の挿図として

## 【重点テーマ】

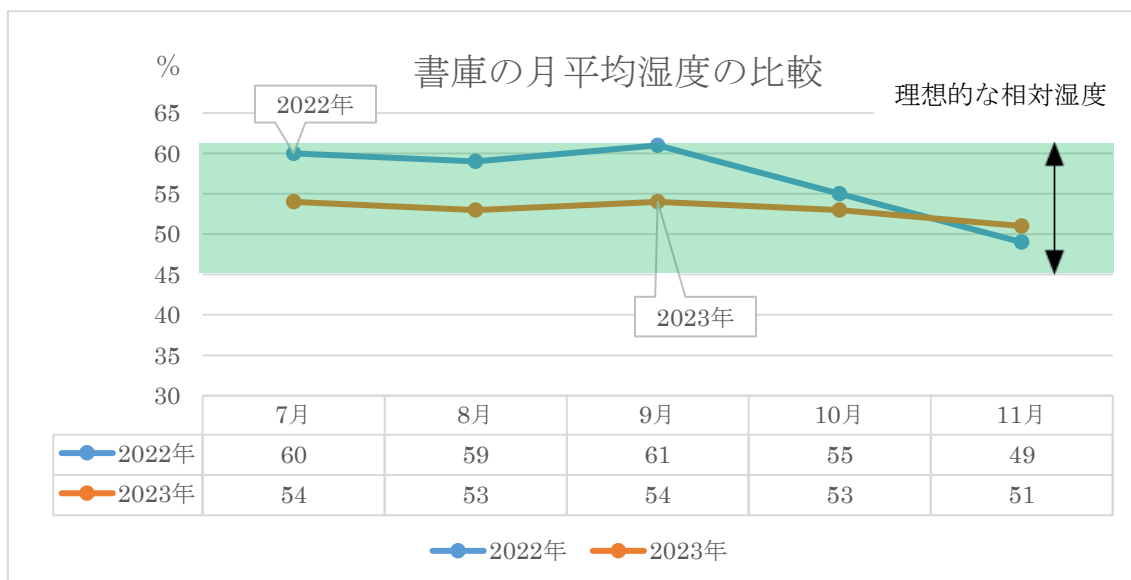
### 1. 資料保存環境の見直しによる除湿機の導入

書庫にて一部資料にカビ被害が発生したことから、2021年～2022年にかけて、閲覧室と書庫内を温湿度計にて調査した結果、夏場（6月～9月）は湿度が高く、書籍・文書の理想的な保管環境（摂氏温度18～22度、相対湿度40～60%）から大きく逸脱している期間あることが判明した。2023年度はよって、専門業者に相談の上、温湿度データロガー（自動温湿度記録計）と業務用除湿機を導入し、7月より本格稼働させた。

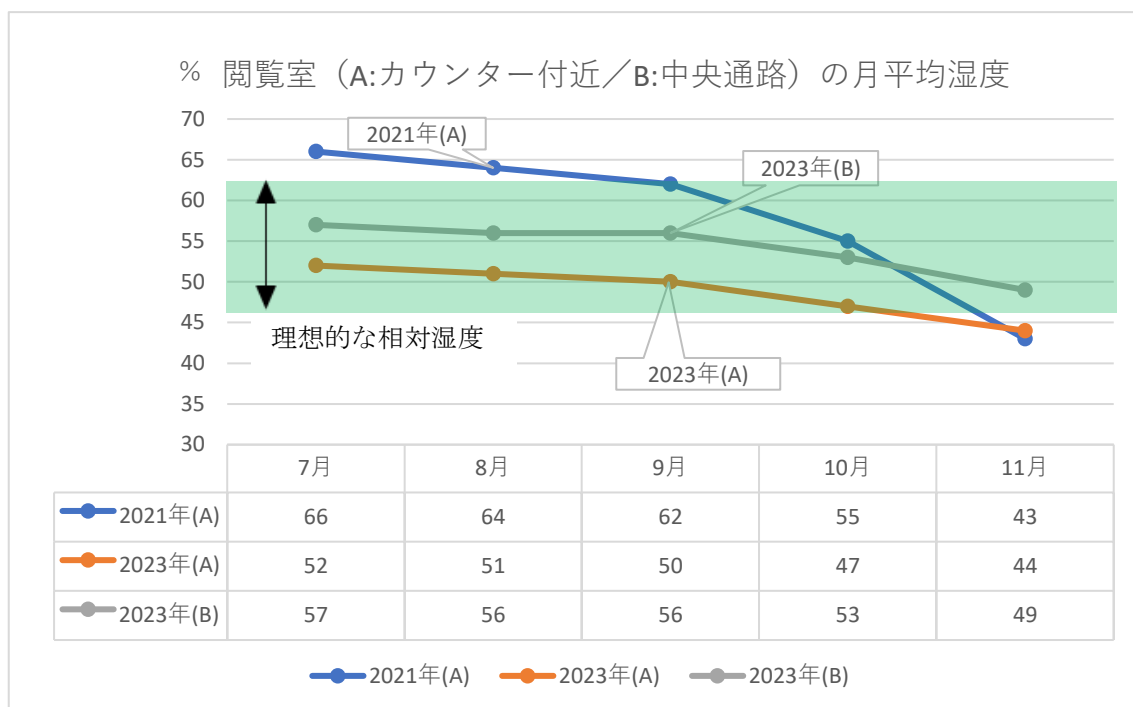
これにより、7～9月にかけての高湿度期間の図書館内の湿度状態を劇的に改善することができた。時期によって1カ月間常に60%以上と高湿度状態が続いていたが、除湿機導入後、3ヶ所に設置してある温湿度計の記録には、受付付近の湿度は常に55%を下回っており、閲覧室中央通路と書庫に関しては、除湿機の設置場所の関係で60%を超える日もあったが、その多くが数時間～数日のため、月の平均湿度で見ると60%未満という結果であった。

館内の詳しい温湿度については表2のとおりである。

（表2 館内：書庫の月毎の平均湿度）



(表3 館内：閲覧室 A カウンター付近／B 中央通路の月毎の平均湿度)



## 2. 図書館の外部向け広報活動の強化

SNS を活用した広報活動として、ブログ「印刷図書館だより」を活用し、新刊・雑誌案内など図書館ならびに関連機関の企画展の情報を発信している。

その他にも前年度に引き続き東京都印刷工業組合、公益社団法人日本印刷技術協会（JAGAT）に協力を依頼し、毎年4月に開催している新人研修セミナーにおいて、当館のリーフレット並びに招待券付き案内状を配布した。

7月18日～31日にかけては、期間限定で第64回全国カタログ展の受賞作品のうち、上位賞・特別賞・審査員特別賞を含めた入賞作品全45点を展示した。会期内は入館料を無料とし、全国カタログ展の受賞作品を目的とした来館者にも、図書館を利用できるようにした。

図書館総合展2023（開催期間10月24日～11月15日）はコロナ禍以降初のオンラインとオンサイト（会場）でのハイブリッド開催となった。10月24日・25日にオンサイト（パシフィコ横浜）にて専門図書館紹介コーナーによるパネル展示、オンラインイベントとして各専門図書館の職員による自館紹介「あなたも使える専門図書館2023 オンライントークイベント」が実施され、これに参加し、アピールに努めた。

### 3. 図書館と関連機関との連携強化

印刷図書館と印刷博物館間で「印刷専門図書館交流会」を3月6日に開催した。今回は関連機関として、国立国会図書館の見学会を行った。職員による図書館としての機能・サービスの説明、特に書庫の見学は資料を保存・管理する上で貴重な体験となった。見学会後は懇親会開催し、今後も継続的に史料収集・保管するためにも、活発な意見・情報交換を行い、それぞれの立場を把握し、相互理解を深めることができた。

#### 【運営管理業務】

#### 理事会・定時評議員会の開催

2023年度における開催状況は、次のとおりである。

##### (1) 定時評議員会

2023年度 定時評議員会（Zoom 併用）

- ・開催日時 2023年6月14日 午後2時～2時25分
- ・開催場所 日本印刷会館 2階大会議室
- ・出席者 評議員23名中13名  
理事16名中16名、監事1名中1名
- ・決議事項 ・2022年度計算書類承認の件  
・評議員3名選任の件
- ・報告事項 2022年度事業報告の件

##### (2) 理事会

2023年度 第1回 理事会（書面決議による理事会）

- ・理事会の決議があったとみなされた日／2023年5月23日
- ・理事会決議があったとみなされた事項の内容
  - ・2022年度事業報告並びに決算の件
  - ・2023年度定時評議員会の開催日の件

2023年度 第2回 理事会 (Zoom 併用)

- ・開催日時 2024年3月19日 午後2時30分～2時45分
- ・開催場所 日本印刷会館 202・203 会議室
- ・出席者 理事16名中15名、監事1名中1名
- ・決議事項 ・2024年度事業計画並びに予算の件

(付記) 事業報告に係る附属明細書について

事業報告に関して、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定されている附属明細書により、その内容を補足すべき重要な事項はないので附属明細書は作成していない。

以 上